

特集 愛飲者インタビュー

テクノロジーが進化しても
本当にいいものを見分ける感覚は
なくしたくない
SODやモリンガオイルと
出会った感覚を大切に

宮城県にお住まいの齊藤千恵さん(58歳)

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 宮城
住所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川1-15-2 B棟 2802
TEL. 03-5787-3498
協カ: 株式会社丹羽メディカル研究所
<http://www.niwa-medical.com>

今回の愛飲者インタビューは宮城県にある『美容室アトリエ Cha・Cha』さんにおじゃましました。東北新幹線仙台駅から地下鉄で奥へと進むと、途中から地上に出た車窓に初夏の緑がまばゆいばかりに飛び込んできます。東北最大の都市なのに、他の大都市にはみられない豊かな緑、さすが杜の都といわれる所以です。目指す美容室も緑豊かで閑静な住宅街の一面にたたずみ、まるで森の中のカフェのよう。迎えてくださったオーナーの千恵さんも、ナチュラルな美しさに包まれ、一枚の絵のように風景に馴染んでいました。さらに店内もスウェーデンハウスさながらの木枠の窓。そこから眺める景色もすべて自然の風景。深呼吸したくなるような空間なのです。そんななか、一人ずつしか予約を取っていないため、お客さんは個室感覚でこの空間を独占することができます。なんと贅沢なことではないかと驚かされたことでもありません。



看板猫のレブリー君



しょう。

「以前はもう少し大通りに面した場所にお店があり、スタッフも何人かいたのですが、15年くらい前にこちらに引っ越してきてからは、ひとりでゆったりとお仕事をさせていただいていま

す」

そんな千恵さん、産まれも育ちも仙台で、子供の頃から絵を描くのが好きで手先が器用だっ

たといえます。漠然と、手に職

を持ちたいという願望があったとか。

「当時の女性が地方で仕事に就くというと、選択肢が少なく私の中では美容師か看護師の資格

を持つ事を目指す道としました。その結果、消去法で私には

美容師しかありませんでした。

当時は美容学校を卒業すると大型の美容室に奉公に上がるよう

な時代でした。誰も教えてくれ

ないから、先輩の技術を見て覚えるしかなかった。自分から学

ばないといけなかったから、逆に自立心や探究心が養われたのかも知れません」

とにかくがむしゃらだった20代。技術習得のために渡り歩い

た店舗も10軒くらいにのぼりま

した。

「20代後半に勤めた店のオー

ナーさんがニューヨークでやっ

ていた人で、小さなお店だったんですが確かな技術が人気でお

客さんが多く、すごくやりがいのある職場だったんです。そこで学んだおかげで美容の仕事の

面白さがわかり、それが後にながっているのかなと思いま

す」

29歳で結婚し、35歳で念願の独立。自身のサロンを開業し、

36歳で男の子を出産。と、ここ

までは奉公の理不尽や厳しさと

いった苦労はあっても、自分が

頑張れば乗り越えられる試練で

したが、

「父親が脳梗塞で倒れ、息子が

アトピー性皮膚炎を発症したん

です。サロン運営もようやく軌

道に乗りかかったときでしたか

ら、体がいくつあっても足りないくらい大変でした。実は、息子のアトピーの原因は私自身と

母乳だったんです。というのも、

これまで自分の体のことに全く無頓着に生きてきたんです。若い頃って、ほとんどそうじゃないかと

思います。お腹が空けばチョコパイでも食べておけばいいや、みたいな生活をずっと

していたのです。栄養バランスのことなど全く考えていなかった。それでも30歳くらいま

で何事もなくいられたのは、健康に産んでくれた親に感謝し

かなくていいです。そんなことすら分

かずに不健康に生きてきて、そのツケが子供にいくなんて考えも

しませんでした」

離乳食に混ぜたSODでアトピーの肌がつるつるに

入退院を繰り返していた父親

の看病、息子の病院通い、美容サロン運営で自身も倒れそうにな

ったとき、たまたまSODの資料が手元にあったそう

です。美容室には様々な美容健康

に関する資料やサンプルなどがダイレクトメールで届き、これ

まではそのほとんどをそのまま捨てていたようですが、たまた

ま届いた資料が、アトピー性皮膚炎のことを丹羽先生が語って

いるものだったそうです。

「どうして手に取ったかとい

うと、これまで病院でアトピー性皮膚炎のことでいわれてきたの

が、アレルギーの除去や乾燥を

防ぎ、ハウスダストなどの原因

と思われるものを取り除くこと

で、どれも対処療法でした。と

ころが丹羽先生の記事は、アトピーだけに限らず、様々な難病

やがんが環境汚染によって体内で発生する活性酸素が大きな原

因だという内容、その記事がす

ごく腑に落ちたのです。ひとつの外的原因を取り除いても、根

本的な解決にならないというこ

とを痛感したのです。人間の体は皮膚から臓器に至るまですべ

てつながっていて、一力所だけ

治療したからといって治るもの

じゃないと思ったんです」
そこからすぐに丹羽先生の著

書は何冊か買い求めたのでし

た。意じゃなかったのですが、なぜ

か丹羽先生の本だけは、すーつ

と読めたんです。そしてすべて

のことが納得できたんです。ど

うしてか分からないのですが、丹羽先生の心からの熱意のよう

なものが伝わったからだと思

います。先生のことにはそんな力があるのだと思います。お会

いできていたら、もっと感じる

ことができたのでしょね。残念です」

確かに、丹羽先生のお話には

情熱と信念があり、同時に温も

りもありました。1年365日患者さんの治療と生薬の開発に

明け暮れ、ゴルフのルールひとつ知らない方でした。先生に全

薬を処方するような方でした。歯に衣着せぬことばも、真実以外の何物でもありませんでした。

「だからすぐにSODを1箱買いました。まずは自分で試して、納得いけば子供にもと考えて取り寄せたのです。その頃、私も疲れ切っていたのです。身体は鉛のように重く、いつも神経がピリピリしていて眠れない状態が続いていました。SODでこの状態が改善されればと思ったのです。まずは1日に2包飲んでみました。そうしたら2日間くらいものすごく体がだるく、とにかく眠い。先生の本によると、その症状は肝臓がかなり弱っている証拠だと書いてあったので、これはマズイと思

い、SODを続けること2週間。ふと気づいたら、だるさも重さもなくて、なんだかやる気まで出てくるくらい調子よくなっていたんです。もう、ピンとききました。間違いない。SODは本物だと思いました」

確信した千恵さんは、さっそく息子さんの離乳食にSODを混ぜて飲ませ始めました。

「離乳食に混ぜて飲ませたところ、2週間ほどで、カサカサだった子供の肌がしっとりしてきたんです。赤みも消え、無駄に泣くこともなくなりました。これはすごい、と感動しました」

次は脳梗塞で倒れたお父様にも飲ませようと思立った千恵さん。早速、病院の主治医の先生に相談に行きました。

「SODと丹羽先生のことかわかる資料を持って、父に飲ませていいかどうか聞いたのです。先生、資料をじっくり読んで、これはいいものだからぜひ飲ませてください、と言われたんです。逆に私のほうが驚いたくらいでした」

脳梗塞で右半身に不自由が生じ、入退院を繰り返していたお父様にその日からSODを飲ませたところ、リハビリの効果がある患者さんより早く、みるみる回復したそうです。担当の医師いわく、SODで血流が良くなったのが効果的だったとか。

「父の回復を目の当たりにしたものですから、医師や理学療法士の方々、患者さんたちがこぞって、私もSODを飲みた

い」といつてきたんですよ。驚いたと同時に嬉しかったですね。そのあと20年、父は車いす生活になりましたが86歳で亡くなるその日までSODを食べ続けました。ご飯が食べられなくなってもSODだけは食べていました。SODに出会えていなければ、父は脳梗塞発症から数年で亡くなっていたかもしれません。ほんとうにSODには感謝しかありません」

年頃の悩みにも 頼りになるSOD

今は大学生になってひとり暮らしをしている息子さんに、何か送って欲しいものある?と聞くと、シャンプーとSODが

と答えるそうです。アトピーは子供の頃に治ってしばらくはSODを飲んでいなかったようですが、

「思春期になるとニキビが気になるらしく、さりげなくSODを送ってくれといってくるんですよ。肌と健康にはSODと

いうのを知っているから」と息子さんには甘いママの顔をのぞかせます。

SODは

自分の身体への投資

20代といわれた

骨密度が証明

SODとの出会いがきっかけで千恵さんの生活は大きく変わりました。なにより、これまで

無頓着だった食生活が変わりま

した。丹羽先生が勧めるお魚や

豆、野菜中心の食事になり、肉

乳製品はなるべく控えるように

しました。加えてSODを欠

かさず飲む。そうすると家族全

員^レ体が軽くなって集中力が出

る。風邪をひかなくなった。肌

がつるつるになった」という変

化、それはたわいもないことが

も知れないけど、実はすごく大

切なことだと感じたそうです。

「私、気づいたのです。SOD

は自分の体への投資だったんで

す。若い頃はSODがなくても

も多少の無理はききます。でも、

10年、20年すると無理してきた

ことが積もり積もって体に出て

くるのです。疲れや腰痛、肩こりくらいならまだマシです。病

気になる人もたくさんいます。

それを最小限にしてくれるのが

SODです。もちろん父のよ

うに重い病気の方には救世主の

ような働きをしてくれませんが、

普通の方は健康維持のためとい

われてもなかなか手に取りにく

いですよね。そこをみなさんに

わかってもらいたいですよね」

その投資の成果は、20年後の

今、確実に現れたとか。

「先日、健康診断を受けたら、

骨密度が20代だと言われまし

た。もちろん、血液検査もすべ

て規定値内。健康そのものだ」と

息子さんのアトピーやお父様

の病状が回復に向かい、やっと

一段落したとき、かねてから念

願だった自然が豊かな地に居城

を構えました。15年前のことで

した。幸いなことにご主人がハ

ウスメーカーに勤務していたの

で、内装などのこだわりが十二

分に生かされたサロンを作るこ

とができたそうです。大きな窓

からお庭に出ると、手入れの行

き届いたバラやハーブ類が初夏

の彩りを競い、まるでイギリス

の家庭庭園のようなたたずま

い。生け垣の先は木々が生い茂

り、森のような風景が広がって

います。

「森ではないんです。この先も

住宅街なんです、緑道がずつとつながっているので森に見え

不眠にも

肌だけでなく筋肉痛、

モリンガオイル

オールマイティの



るんでしょね。その先にお住まいの方などは、庭から入られて窓からこんにちは、といらっしゃいますね」

ほんとうに海外のリゾート地にいるような感覚です。

「いらっしゃる方は、20年来の常連さんが多いですね。みなさ

ん、信頼してきてくださるので

その信頼にお答えできるような美容の技術はもちろんのこと

ですが、SODを始め私がお勧めするものはとても慎重に吟

味したもののばかり。特に口に入るものと肌につけるものは安心

して末長く共にしたいと思うん

です。開発者、成分、品質などは特に重要視しています。対面

でお話ししながらの仕事ですから、「ご相談を受けることも多く、

少しでもお答えできるよう日々勉強ですね。また、それが楽し

いんです」

最近のお気に入りにはモリンガオイルだとか。理美容関係の方

にはとくに評判のいいオイルですが、千恵さんはどのようにお

使いなのか伺ってみました。「私は常に情操の豊かさが感じ

られる自然の中で過ごしたいと思っ

ているので、メディカルハーブのモリンガオイルはな

によりもオーガニック100%で、クレオパトラやインドの

アーユルヴェーダでも古代から継承されてきた美容健康法

でしょ？ それだけでも私の

五感、六感を刺激してくれま

す。実際に使ってみて、まず香りが自然でいいですね。どこか

懐かしさを感じさせてくれる香り

で、なぜか安堵して豊かな気持ちになれるんです。用途は

オールマイティといってもいい

くらいに優秀ですよ。まずはお顔。私はお風呂に入る前に

モリンガオイルでクレンジング

マッサージをして、オイルを浸透させている間に家事をしたり

しています。そして洗顔の前に湯船にゆっくりつかり蒸気でさ

らに浸透させ、最後にダブル洗顔でしっかりと落とします。そして寝る前に目の周りや耳、首

こわばった筋肉が柔らかくほぐれて疲れが取れるような気がします。あと、立ちっぱなしのお

仕事の方などはふくらはぎや足首もマッサージして寝るとむくみも取れますよ。我が家ではついでに愛猫にもマッサージしてあげます。そうすると人間も猫もハーブ効果でぐっすりと眠れます。もちろん、乾燥などによるシワ予防の効果も抜群。添加物などが一切入っていないオイルだからリップクリーム代わりに唇にも愛用しています。お客様もすぐく気に入ってください

て、大切なお友達や家族にプレゼントされる方もいます」

モリンガオイルという自分が求めているものに出会えたことに感動し、それをお友達やお客様

様にも実感してもらえることが何よりも嬉しいという千恵さん。

「今、ITやAIなどの情報技術の進化のスピードが速くて、人の手を介することなくすべての物事が進められていく時代じゃないですか。でも、そればかりでは人の脳も身体も疲れてしまうと思うんです。私は、発展と共に感覚的なコミュニケーションの場も複合していくことが求められる時代に

代になって欲しいと願うんです。ハイテク時代についていく知識

は必要とされているけど、私は、本来人間が持つ

ている五感、六感をいちばん大切に失わないでいたいと思うんです」

「そういえば丹羽先生もいつもおっしゃってました。薬ばかりに頼っていると、自分の本当の身体の声、SOSが聞こえなくなるぞ」と。千恵さんのおっしゃっていることはこういうことですよ。素敵なお人柄に触れ、あつという間の時間でした。ありがとうございました。」



本紙の利用に関するお願い

日本SOD研究会報は、株式会社丹羽メディカル研究所のみ利用許諾をしております。当研究会の許可なく、文章、画像の一部および全てについて、販促物利用、転載、複製、複写、転用、編集、ブログへの引用などの二次利用を固く禁じます。丹羽メディカル研究所が許可した場合はこの限りではありません。

SOD様作用食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都世田谷区玉川 1-15-2 B棟 2802

日本SOD研究会 宮城宛

Tel 03-5787-3498

までご一報下さい。

●SOD様作用食品とは●
丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽朝負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に



二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理は、私に大自然のメカニズムの精緻さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。」

先生は生前、土佐丹羽クリニックの院長として日々、医療の現場で、がん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられていました。また、SODなどを始めとする論文は高い評価を得て、日本のみならず海外の学会で講演したり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送られました。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。

最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのではないでしょうか？」というような、ご質問をよくいただきます。

その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で作られたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴



原寸大 横 30mm、縦 25mm

- 管理番号は6桁
※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- シール左部分に絵や記号が記載されている
※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- 他の工場で作られた製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある

◆現在、丹羽療法の診察は皮膚科のみとなります。ご希望の方はご予約いたします。（※自由診療）
※診療日等に関しましては、状況により変更、休診となることもあります。予めご了承ください。

丹羽メディカル研究所 ☎ 0120(731)175